

キャリアをめぐる多様な学びに応えるカリキュラム ～生きるを考え、働くを学ぶ～

	科目名	100文字シラバス
基	基礎ゼミ(市ヶ谷基礎科目)	文献の調べかたやレポートの書きかた、プレゼンテーションのスキルなど、大学での学びの基本的姿勢とリテラシーを身につける。
	キャリア研究調査法(質的調査)	人のキャリアに関わるさまざまな課題について研究するための基礎的手法として、質的調査(観察やインタビュー)のスキルを少人数クラスで習得する。
	キャリア研究調査法(量的調査)	人のキャリアに関わるさまざまな課題について研究するための基礎的手法として、量的調査(アンケートやデータ分析)のスキルを少人数クラスで習得する。
幹	キャリアデザイン学入門	キャリアデザイン学を構成する学問領域の基本的な概念や考え方、歴史や理論の展開、政策や支援の方法などについて学ぶ。
	労働法	雇用形態や働き方が多様化している現在、雇用にまつわる法律や社会保障など、自立した職業人として必要な社会的諸制度について学ぶ。
	ファシリテーション論	グループや組織を活性化し、集団による学習や問題解決などを促すためのファシリテーションの手法を、実習を交えながら身につける。
科 目	若者の自立支援	ニートや非行など、社会から排除されやすい若者の実情と、彼らを支援し、自立を促すための社会のしくみ作りについて考える。
	職業選択論Ⅰ	学校を卒業し、就職活動を行い、働き始めるという「学校から職業への移行過程」を、職業選択、職業的適性、就職・採用活動、初期キャリアといった側面から考察する
	ライフコース論	人生の軌道や周期＝ライフサイクルに学問的にアプローチし、人生の流れやパターンの時代的な変化や個々人における多様性について理解を深める。
	生活設計論Ⅰ(社会保障)	社会保障の考え方や歴史などから「社会保障とは何か」について理解した上で、各種社会保障制度の現状と課題について学びます。
	生活設計論Ⅱ(生活設計)	現代社会では多様な選択肢の中から個人が主体的に生活設計することが不可欠です。生活設計を立てるために希望や目標の実現に向けて職業選択、家族、地域、家族や生きがいづくりなど、自分にふさわしいライフキャリアとは何かキャリアのモデルとなるような社会人をお呼びして、その経験を語ってもらう。具体的経験の素材にしなが、キャリア理論を学ぶ。なお、基礎的なキャリアインタビュー法も講義する。

キャリアをめぐる多様な学びに応えるカリキュラム ～生きるを考え、働くを学ぶ～

科目名		100文字シラバス	
体	職業能力ベーシックスキルⅠ	職業人・社会人にとって基本となる職業技術の習得を目指す。目上とのコミュニケーション、アルバイト先やインターンシップ先での振る舞いなどの実践的なスキル形成を図る。	
	職業能力ベーシックスキルⅡ	ビジネス現場への取材(企業情報の収集と企業人に対するインタビュー)と取材結果の研究発表という二本の柱から構成される。こうした取材と研究という取り組みを通して円滑な就職活動の開始へとつなげていく。	
	キャリアサポート事前指導	コミュニケーションスキルの基本を学びながら他者をサポートする「キャリアサポート実習」の意義、方法、実習計画の立て方等を理解し深めていく。	
	キャリアサポート実習	他者をサポートする「キャリアサポート実習」を行う。レポートを執筆し、各担当教員ごとに行われる「成果報告会」で振り返りを行う。	
	就業機会とキャリア	毎回、異なる企業の人事担当者をゲストスピーカーにお招きし、当該企業の属する産業界の動向や企業の現状、これら企業で期待されている人材像について、幅広く学びます。	
験	教育マネジメントⅠ	日本の教育や学校について、マネジメントという視角から、その現状やあり方を考えます。基礎知識を習得した上で、「調べ学習」という体験学習で現状や課題に肉薄します。	
	教育マネジメントⅡ	公教育や学校だけでなく、教育産業や教育NPOにも対象領域を広げて、それらのマネジメントについて基礎的知識を習得し、事例分析やヒアリングなどの「調べ学習」をします。	
	異文化適応と教育Ⅰ	現代社会は国内外で文化の相違する人々がかかわることが必須である。文化とは何かを理解し、文化の違いから学び、自己変容、社会変革をめざす「多文化教育」について参加体験型で学ぶ。	
	異文化適応と教育Ⅱ	上記「Ⅰ」を受けて、グループで授業時間外に異文化接触の事例研究を行いクラスに発表する。国内のマイノリティ集団に対するインタビューを行う。「Ⅰ」と併せて体験型選択必修ペア科目となる。	
型	キャリア体験事前指導	企業や公共団体などの現場で実際に仕事を体験、あるいは企業の提示するテーマについて企業との協働プロセスによる商品開発などを行うための事前指導を行う。	
	キャリア体験学習	事前指導を踏まえ、実際に、企業や公共団体などの現場での仕事体験やあるいは企業の提示するテーマについて企業との協働プロセスによる商品開発などを行い、報告書等を作成する。	
	キャリア体験事前指導(国際)	外国の大学で教育キャリア、日系企業で職業キャリア、国際社会でライフキャリアを総合的に体験学習を行うための事前指導授業であり、渡航先の外国事情の学習、体験先の日系企業についての企業研究などを行う。	
	キャリア体験学習(国際)	外国の大学で教育キャリア、日系企業で職業キャリア、国際社会でライフキャリアを総合的に体験学習を行う授業である。8月末頃から2週間ほど外国で滞在し、帰国後、体験学習レポートとその発表を行う。	
科	アントレプレナーシップ論Ⅰ	起業/企業家的行動様式を身につけるために日本経済の問題を理解しビジネスプランを実際につくることを通じてコンセプトを創造する力を養う体験型科目である。	
	アントレプレナーシップ論Ⅱ	ベンチャービジネスやベンチャービジネスを巡る種々のテーマについて学び、そしてベンチャービジネスで繁栄する地域を取り上げキャリアデザインの視点から考察する。	
	メディアリテラシー実習Ⅰ	映像の歴史と映像分析の方法を学びながらメディア・リテラシーの基礎的な概念や思想を学習するとともに簡単な映像を製作する。	
	メディアリテラシー実習Ⅱ	メディアリテラシーの基礎的な理論をもとに、ドキュメンタリー映像を製作し、実践的なメディア・リテラシー教育の方法を学ぶ。	
	地域学習支援Ⅰ	地方自治体、NPO・市民団体、地域企業などのパートナーシップによる地域学習の推進の実態と課題を学び、現場で求められるコーディネーターの役割、機能について理解を深める	
	地域学習支援Ⅱ	青少年の社会参加と自立支援、地域文化振興、多文化理解、地域住民の学習と情報発信などの諸課題に即して実習をおこない、地域学習支援士としての能力、スキルを習得する。	
	目		

キャリアをめぐる多様な学びに応えるカリキュラム ～生きるを考え、働くを学ぶ～

	科目名	100文字シラバス
発	発達・教育キャリア入門A	1970年代以降の学校改革論争、1990年代からの学校改革、2000年代の改革の混迷、それぞれの理解を通して、子ども・教師・保護者・地域住民と学校との関係を考える。
	発達・教育キャリア入門B	教育学の基本的な概念や理論、歴史や制度が今日の教育現場でいかに具現化されているのか実証的に取り上げる。そのことを通して、教育の魅力と確かな教育観を身に付ける。
	発達・教育キャリア入門C	地球上の生命体の一部としての人間の生命維持、次世代育成、共同体形成、表現・言葉・文字記号という特徴を踏まえ、「仕事」「あそび」「学び」について家族、地域、学校、職場に即して「キャリア」の歴史的変遷と生涯学習の意味を考える。
	発達・教育キャリア入門D	現実と自己認識のずれと一致にかかわるキャリアデザインを軸に、学習、学問、知識、コンピテンスの構造とそれを支える「生涯学習・教育」の方法と政策を学ぶ。
達	外書講読A(発達・教育キャリア)	東アジア、南アジアを中心に教育にかかわる発展途上国支援の在り方に関する基礎文献を読む。
	外書講読B(発達・教育キャリア)	生涯学習に関する国際的展開についての基礎文献を、ユネスコ、OECDを視野に入れて検討する。
	生涯発達心理学Ⅰ	人間の誕生から死に至るまでの心理的な変化と発達について学ぶ、前期は誕生から青年期を取り上げる
	生涯発達心理学Ⅱ	成人期以降老年期に至る人間の発達について研究し、最後に生と死、生きる意味を考える
教	教育相談論Ⅱ	学校や家庭の問題に対して、相談担当者に求められる応談の視点や方法はいかにあるべきかについて考える。現代の子どもの実態と教育の問題にも詳細に触れる。
	教育相談論Ⅲ	相談担当者に求められる資質や能力について考える。教育相談の考え方の背景にある臨床心理学や教育学についても触れる。実践的でベーシックな段階の教育相談のテクニックを習得、演習等にも挑戦する。
	キャリアカウンセリングⅠ	キャリアに関する問題解決支援を行うキャリアカウンセリングとは何か、基礎理論、その背景、活用分野を学ぶ
	キャリアカウンセリングⅡ	キャリアカウンセリングの実践、展開方法、アセスメント、傾聴法など、具体的なキャリアカウンセリング方法を学ぶ
	キャリアカウンセリングⅢ(ケーススタディ)	キャリアカウンセリングの事例を取り上げ、その事例についてキャリアカウンセリングによる支援法方法を学ぶ
育	教育相談論Ⅰ	学校における生徒指導と教育相談における心理学的なアプローチについて学ぶ。幅広い意味での「支援者」として身につけるべき発達心理学的、教育心理学的な知識や視点について学ぶ。
	教育心理学	「発達」「パーソナリティ」「学習」「臨床」など、学校において教える場面で必要となる心理学的なトピックについて学ぶ。ただし、扱う内容は学校外でも応用可能なものも含む。
	学校論Ⅰ	学校の歴史や現状という事実、役割や機能についての論争を理解することを通して、人のキャリアにとっての学校の存在意義を考える。
キ	学校論Ⅱ	学校における教育活動や教育実践の諸相を事例分析し、これに自らの学校体験も重ね合わせて、日本の学校の課題やあり方を考える。
	学校論Ⅲ(キャリア教育)	学校におけるキャリア教育の歴史、政策、教育内容(カリキュラム)、教育方法(教科および教科外教育)、推進体制・組織、現状と課題を学び、キャリア教育についての基本的な理解を得る。
	学校論Ⅳ(キャリア教育)	学校におけるキャリア教育のすすめ方、その現状と課題について、具体的な実践事例等に即して学ぶ。

キャリアをめぐる多様な学びに応えるカリキュラム ～生きるを考え、働くを学ぶ～

	科目名	100文字シラバス
ヤ	生涯学習論Ⅰ(現代社会と社会教育Ⅰ)	教育の歴史において、生涯教育・生涯学習論が登場した背景をふまえながら、生涯学習の理念と歴史について学ぶ。
	生涯学習論Ⅱ(現代社会と社会教育Ⅱ)	人間のライフサイクルに即して、子ども期・青年期・成人期における能力と発達、社会的関係性の獲得の視点から、地域生涯学習の展開について理解を深める。
リ	図書館情報学Ⅰ	図書館の歴史や図書館資料の概要、図書館にかかわる思想や法令など、図書館情報学の基礎的な知識を体系的に学ぶ。
	図書館情報学Ⅱ	図書館にかかわるICTの基礎知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して基本的な技術を習得する
	メディア教育論Ⅰ	ICTを活用したメディア教育に関する基礎的な理論と歴史、実践の概要を学ぶ。
	メディア教育論Ⅱ	ICTを活用してアメリカなどの海外の大学との文化交流学習を実践することによってICT教育の技術を学ぶ。
ア	教育政策	教育政策を単なる現場に影響を与える無機的な要因と捉えるのではなく、どのような政治的過程を経たものなのかを掘り下げつつ、その作用・反作用についてマクロな視点から理解する。
	現代教育思想	現代の教育思想が、社会的現実・未来の見通しをどのように把握し、また、古典的な教育思想とどのように格闘して生み出されているのか、その基本的成り立ちと構図について理解する。
	生涯学習論Ⅲ(成人教育論Ⅰ)	学校的な知を超えて体験的な学習や相互的な学習、職業技術的な習得など、生涯にわたる学びをつづじて人が発達するという、自己主導的な学習の意義について考察する。
領	生涯学習論Ⅳ(成人教育論Ⅱ)	生涯学習の機会を組織する公共機関・大学や学習事業者などの担い手側の視点から、生涯学習の歴史的・実践的・システマ的な理解を深め、内容編成のスキルを習得する。
	学習の社会史A	西洋における学習活動や教育制度の生成・発展のプロセスを、社会における学習・教育の位置づけから理解する。
	学習の社会史B	日本における学習活動や教育制度の生成・発展のプロセスを、社会における学習・教育の位置づけから理解する。
域	教育社会学Ⅰ	初学者が陥りやすい心理学的思考・経営学的思考との違いを明確にしながら、(主に)教育を対象に社会学をするという動作ができるようになるよう、基本的トレーニングを実施する。
	教育社会学Ⅱ	教育社会学の基本的諸概念を駆使して、教育・政治・政策・経済・経営・文化・コミュニティといった社会的諸領域の複雑な関係を読み解くという動作ができるようになるよう、応用的トレーニングを実施する。
	教育経済学	マクロな教育の公共投資やその経済効果、ミクロな家計や企業の教育費支出などを経済学の視点から分析して、教育と経済の関係を理解する。

キャリアをめぐる多様な学びに応えるカリキュラム ～生きるを考え、働くを学ぶ～

	科目名	100文字シラバス
ビ	ビジネスキャリア入門A	ビジネス分野の科目群を履修する前提として、企業経営の基礎を理解する。具体的に、株式会社および証券市場の役割を確認した上で、経営戦略論の基礎を中心に学習する。
	ビジネスキャリア入門B	経営組織(マイクロ組織論、マクロ組織論)の基礎を中心に学習する。組織の特性や組織に働く個人の心理について学んでいく。
	ビジネスキャリア入門C	ビジネスや市場を分析する際に必要となるマイクロ経済学の理論を講義する。消費者、生産者(企業)、個別商品の市場といった経済活動に焦点を当て需要・供給分析を講義する。さらに、組織を分析する理論であるインセンティブ設計や
	ビジネスキャリア入門D	景気を分析し、経済政策の効果を検証する際に必要となるマクロ経済学の理論を講義する。社会保障制度や財政・金融制度、および産業政策や労働政策も具体的事例をあげながら講義する。
ジ	外書講読A(ビジネスキャリア)	ビジネス・キャリアに関する外国語文献を輪読する。具体的には、戦略論、マーケティング、会計などマクロ組織論に関する外国語文献を取り上げる。
	外書講読B(ビジネスキャリア)	ビジネス・キャリアに関する外国語文献を輪読する。具体的には、組織行動、人的資源管理、人材マネジメントなどマイクロ組織論に関する外国語文献を取り上げる。
	職業選択論Ⅱ	「学校から職業への移行過程」の変化の諸相を雇用形態の多様化、法制度の変遷と実態、働き方をめぐる諸問題などから理解し、今日の若者が置かれている状況を構造的に考察する
	人材育成論Ⅰ	人が企業社会のなかで、職業能力を形成することの意義と方法、課題などを、職業能力の訓練、組織内環境といった視点から考察する。
ネ	人材育成論Ⅱ	人が企業社会のなかで、職業能力を形成することの意義と方法、課題などを、性別、職種別、雇用形態別、企業規模別といった視点から実証的データに基づきながら、考察する
	産業・組織心理学Ⅰ	組織に働く個人の心理に学ぶ。具体的には、人事や採用などのアセスメント、キャリア発達、ワークモチベーションについて学ぶ。
	産業・組織心理学Ⅱ	組織や集団に所属することは人間行動にどのような影響を与えるかについて学んでいく。具体的には、リーダーシップ、グループダイナミクスなどのトピックを扱う。
	キャリア開発論	ビジネスキャリアの形成・開発に関する基礎的な理論を学ぶとともに、近年重要性が高まっているビジネスキャリアとライフキャリアの調和の問題についても理解を深める。
ス	リーダーシップ論	集団生産性やグループダイナミクスにかかわるリーダーシップの役割を、理論と事例の両面から学ぶ。
	経営統計論(心理データ)	キャリア研究調査法(量的調査)を履修済の者を対象として、アドバンスな統計分析手法を取り扱う。主に心理測定の観点から信頼性や妥当性について学ぶ。
	企業会計論	企業の業績は、複式簿記という特有の技法によって測定されている。この講義では、その基礎を学習する。
	経営統計論(企業データ)	この講義では、キャリア研究調査法(量的研究)を受けて、統計分析の知識を深めることを狙いとする。とくに、売上、利益等の企業財務データを素材とし、コンピュータを用いた大量データ分析の手法を学ぶ。
キ	経営組織論Ⅰ	事業経営の基礎に関して、組織的・管理的視点から考察を行う。組織論・経営管理論の領域のうち、特に個人の行動・意欲に着目したマイクロ組織論の考え方を学ぶ。
	経営組織論Ⅱ	事業経営の基礎に関して、組織的・管理的視点から考察を行う。組織論・経営管理論の領域のうち、リーダーシップ論、および組織単位の行動に着目したマクロ組織論の考え方を学ぶ。

キャリアをめぐる多様な学びに応えるカリキュラム ～生きるを考え、働くを学ぶ～

	科目名	100文字シラバス
ヤ	戦略経営論Ⅰ	経営戦略論・事業戦略論の基礎理論により、企業における戦略の策定に関する考え方を学ぶ。併せて、企業の公表データを用いた個別企業の戦略分析の基礎についても学習する。
	戦略経営論Ⅱ	企業において戦略を実行するための、組織・人材のマネジメントに関する基礎理論を学ぶ。企業における人間の行動・集団の行動の性質について、理論的な考察を行う。
	経営分析論Ⅰ	簡単な財務情報と定性情報を用いて、企業分析の基礎を身につける。日本の主要業種における代表的企業を事例として分析を行い、企業分析の基礎を身につけると同時に、主要業種の知識を身につける。
	経営分析論Ⅱ	企業情報は、財務情報、定量情報および定性情報など、さまざまある。この講義では、それらを総合的に活用し、企業の業績、収益性、リスク等を系統的に把握する方法を学ぶ。
	職業キャリア論	世の中にはどのような職業があり、その職業がどのように確立してきたか、そしてその職業に就くためにはどのような能力が求められるのかを学びます。
	労働経済学	労働経済学の理論を説明しつつ、失業や賃金などのマクロ経済統計を使いながら、キャリア形成の過程を把握する。
ア	シティズンシップ論	自律・自立した個人からなるコミュニティのあり方や、市民によるコミュニティの運営の重要性について、欧米などの事例から考える。
	生産システム論	ものづくりの基礎(生産技術、生産管理、JIT生産、サプライチェーンなど)と日本の製造業がおかれた経営環境、技術革新への対応、国際化への対応などを具体事例を通して紹介します。
	国際経営論	グローバル化の歴史や現状を理解した上で、それに関連した企業経営に係る問題について学ぶ。また、キャリアデザインや異文化コミュニティの視点からも考察する。
	日本経済論	基礎的な経済理論をもとに、戦後日本の経済発展、現在の日本経済の仕組みや日本経済が抱えている問題点を解説する。
領	産業論	日本の産業構造の実態と特徴を歴史的に概観する。そして、国際化、サービス経済化、中小企業、地域開発などの視点から日本の産業構造の将来を展望する。
	広告ビジネス論	広告ビジネスについて、キャリアデザインとの関連を踏まえつつその仕事の仕組みを理解し、その上で変革期にある広告業界の抱える種々の問題について考察する。
	マーケティング論	新たな商品の開発、顧客満足の向上といった、企業活動次においてなくてはならないマーケティングの理論を学び、実際の企業の活動理解する。
	流通・マーケティング戦略論	実践的かつリアルなマーケティングの学習として、現在、市場で進行しているさまざまな動きを検証し、説得力をもった企画の作り方を学んでいく。
	流通・サービスビジネス論	流通・サービスビジネスに関する基礎的な用語や知識を理解し、実施の現象や出来事と理論を結びつけて考える力を養う。
	就業機会発見実務	様々な就業機会ビジネス機会について学び、そのために自己理解を深め、そしてCD学部とは何かを考察し第三者に説明できるように言語化する。
	域	

キャリアをめぐる多様な学びに応えるカリキュラム ～生きるを考え、働くを学ぶ～

	科目名	100文字シラバス
ラ	ライフキャリア入門A	キャリア形成に重要な役割を果たす場として、国内外の様々なコミュニティについて取り上げ、労働とコミュニティの接続点を考察しながら、ライフキャリアに関する入門的理解をすすめる。
	ライフキャリア入門B	わたしたちの「生活の質」を高め、より豊かな生き方(ライフキャリア)を実現するために、創造的な文化が社会のなかでどのような役割を果たすのかを具体的に探る。
	ライフキャリア入門C	現代社会における家族のあり方やそれをとりまく社会環境に注目しながら、人間関係や社会への理解を実証的に深め、ライフキャリアの入門的理解を進める。
	ライフキャリア入門D	現代のような成熟社会になると、これまでのように行政依存型の個人から市民として自立的な個人が求められます。本授業は文化の視点から「まちづくり」を通じてそのあり方を考えます。
	外書講読A(ライフキャリア)	グローバルコミュニティの現状に関する学術論文や商業誌論文を題材とした英文の講読を通して理解を深める。
	外書講読B(ライフキャリア)	文化・言語・歴史等について書かれた古典を英語の原著あるいは英訳で読み広義の文化の識見を深める。
イ	コミュニティ社会論Ⅰ	現代日本文化における社会規範及び個人の価値観の変遷について、社会形態、国際関係等情勢の変化との関係で説明する方法を受講学生とともに模索する。
	コミュニティ社会論Ⅱ	上のⅠを受けて、異文化の視点から見た現代日本文化について複数の事例を取り上げ、日本人の自己文化意識との相違が生まれる理由を考察し、文化の受信・発信のあり方を探る。
	家族論	現代家族における家族の変化や課題などについて、具体的な事例やデータに基づきながら実証的に学び、今後の家族のゆくえや社会のあり方を、国際比較を交えて探る。
フ	若者文化論	若者文化について、具体的な事例や系譜に学びながら、現代社会の若者の社会的境遇や存在について見識を深める。
	世代間交流論	異世代間の関わりや相互の影響に関して、これまでの推移や現状などを把握し、他国との比較も視野に入れながら、今後の社会のあり方や個々人のライフキャリアについて学ぶ。
	身体表現論	非言語コミュニケーションの理論や実践について、様々な場面での身体表現から学ぶ。
	地域文化論	多文化社会論Ⅱと関連性を持たせつつ、中近東・地中海世界・西欧世界の間に関わり、再発見と相対評価の過程を見ることにより、キャリア理解の一助とする。
	アイデンティティ論	「自己」という存在について、発達段階やライフステージ、所属集団などの多様性を考慮しながら、現在までに提起されてきた諸理論や研究知見等を学ぶ。
キ	余暇集団論	ライフキャリアの一側面としての余暇に注目し、どのような人間関係で余暇が過ごされているか、文化差や時代の変容、今後の展開等を視野に入れつつ学ぶ。
	NPO論	NPOやNGO、コミュニティビジネスやボランティアなど、公共性・社会性の高い組織や活動がどのように運営され、どのような課題をはらんでいるのかを探る。
	公共サービス論	現代は多くの社会不安を抱える社会ですが、公共サービスは人々が安心・安全に暮らすことのできる仕組みづくりとその実践です。誰もが生きがいをもって暮らせる社会にするための公共サービスのあり方を考える。
	アート・マネジメント論	アートプロジェクトや企業によるアート支援(メセナ)、アートを活用したまちづくりや観光産業など、アートと人々をつなぐさまざまな活動やその運営のありかたについて学ぶ。
ヤ		

キャリアをめぐる多様な学びに応えるカリキュラム ～生きるを考え、働くを学ぶ～

	科目名	100文字シラバス
リ	文化経営論	行政や企業、NPOなどによる文化支援や、文化芸術を活用した地域振興、文化産業の発展と課題など、現代社会と文化の関わりを実践的な観点から考える。
	メディア文化論	メディアの媒介により形成される文化について学び、メディア文化と批判的創造的に関わることができる能力を身につける。
	文化マーケティング論	文化志向のマーケティングの考え方と方法について学び、文化とマーケティングが重なる分野での就業力を身につける。
	ブランド創造論	自分自身の存在を「ブランド」ととらえ、自らが他者や社会とどのように関わっていくべきかを、「マーケティング&ブランド」概念を通じて学ぶ。
	産業文化論	消費の意味を問い、消費社会の諸相を概説し、産業、製品開発、マーケティング、欲望、ゆたかさ、ライフスタイルといった点との相互関係を明らかにする。
ア	ミュージアム概論	ミュージアムは世界共通の文化施設である。国内でも約5000館を越すミュージアムがあるが、その全貌を知る機会はほとんどない。本授業は、その基礎知識を学ぶことで、ミュージアム専門職を目指す人や、よき利用者を育てることを目指す。
	ミュージアム経営論	ミュージアムは新しい社会を開拓する文化施設の一つである。公立や私立などの経営形態に応じて、その目的や活動のあり方を理解して、社会のニーズにあうミュージアムのあり方を考える。
	多文化社会論Ⅰ	広い地球上のさまざまな地域に人々が住み文化を形成し伝承され、交流を通じて変容することを理解し、個性的なキャリア形成のために役立てることを目標とする。
領	多文化社会論Ⅱ	個々の人間が集まり社会を作ること、社会それ自体のキャリアが歴史を作ること、人々の実生活や意識にそくして学び、個のキャリアと社会の関わりについて考える。
	多文化社会論Ⅲ	現代の多文化社会を見据えつつ、人は自分が属する社会から強い影響を受けること、それを受け入れたり拒んだりすることを通じ独自のキャリアが形成されることを学ぶ。
	アジア社会論Ⅰ	東アジア諸国を中心に、アジアの歴史、文化、政治、経済、及び国際関係を講義する。
	アジア社会論Ⅱ	近・現代中国の歴史、文化、政治、経済を講義する。
	国際関係論Ⅰ	国際問題の見方、国際社会の仕組み、国際社会に生きる人間のキャリアを講義する。
域	国際関係論Ⅱ	中国の国際関係、及び日中関係を主内容とする講義である。
	国際地域研究Ⅰ	古代から近世までの韓国と日本の関係の歴史を学び、日韓交流のための基本的な歴史的事実を確認する。
	国際地域研究Ⅱ	近代以降現代に至る韓国と日本の関係の歴史を学び、日韓交流のための基本的な歴史的事実を確認する。

キャリアをめぐる多様な学びに応えるカリキュラム ～生きるを考え、働くを学ぶ～

	科目名	100文字シラバス
関	国際コミュニケーション語学(英語Ⅰ)	選択英語科目初級オーラルを踏まえたレベルの英語日常会話を学び、中級程度の英語運用能力を養成する。
	国際コミュニケーション語学(英語Ⅱ)	選択英語科目初級オーラルを踏まえたレベルの英語日常会話を学び、中級程度の英語運用能力を養成する。
	国際コミュニケーション語学(英語Ⅲ)	国際Com.語学(英語Ⅰ・Ⅱ)を経た程度の英語運用能力を前提に、中級から上級に向けた英語会話能力を目指す。
	国際コミュニケーション語学(英語Ⅳ)	国際Com.語学(英語Ⅰ・Ⅱ)を経た程度の英語運用能力を前提に、中級から上級へ向けた英語会話能力を目指す。
	国際コミュニケーション語学(英語Ⅴ)	選択英語科目初級ライティングを踏まえたレベルの英語文章構成法を学び、中級程度の英語文章作成能力を養成する。
連	国際コミュニケーション語学(中国語Ⅰ)	中国語の入門。発音と基本的文法を学び、初級日常会話を通して中国語の発想の方法、様々な中国文化にも触れる。
	国際コミュニケーション語学(中国語Ⅱ)	中国語の発音、文法の入門的知識をもとに、中級日常会話を通して中国の文化、中国人の考え方の根幹を理解する。
科	日本語教育概説	日本語教育とは何を指した教育か、日本語教員に必要なことは何かを考え、本学部で学ぶ日本語教育関係科目群のそれぞれの教科について概説する。
	多文化社会における日本語教育A	日本語について、人と人、人と社会をつなげる役割を果たす言語及びコミュニケーションの視点から考え、具体的な日本語教育実践につなげる方法を学ぶ。
	多文化社会における日本語教育B	「A」を受けて、実際の日本語教育をいかに組み立てていくかを、実践を想定して学ぶ。受講学生の参加体験型で行い、模擬授業や可能なかぎり教育現場に赴いて学ぶ。
	多文化社会における日本語教育C	国境を越えた人の移動が活発化する中、人々が文化的多様性の中で協働して社会の発展を目指し活動している。それに貢献できる日本語教育のあり方を探求する。
	多文化社会における日本語教育D	多文化社会で人々が「共生」し、自己実現を希求するために、どのような資質・能力を養成していくべきか、それに対して社会、とりわけ教育の一分野として日本語教育が果たすべき役割を考える。
	多文化社会における日本語教育E	多文化・多言語社会において、人と人をつなげるコミュニケーションはいかにあったらよいか。現在および今後の日本において社会と言語の関係のあり方について学生とともに考えていく。
目	地域活性論	他学部・他大学との合同授業
	演習(発達・教育/ビジネス/ライフ)	※ゼミシラバスは省略(全専任教員が担当)
	キャリアデザイン総合演習	4年次秋学期に、キャリアデザイン学部におけるこれまでの学びを振りかえり、今後の社会における人々のキャリアデザインのありかたについて考える。
目	卒業論文	省略